

平成 28 年度 「中学生チャレンジテスト」における 難波中学校の結果の分析について

大阪府による「中学生チャレンジテスト」について、平成 28 年 6 月 23 日（木）に、第 3 学年を対象として、教科に関する調査と生徒アンケートを実施しました。

大阪市教育委員会では、保護者や地域の皆様に説明責任を果たすことが重要であると考え、より一層教育に関心をお持ちいただき、教育活動にご協力いただくため、各学校が調査結果や調査結果から明らかになった現状等について公表するものとしています。

本校でも、調査結果の分析を行い、これまでの成果や今後取り組むべき課題について明らかにしてまいりましたので、本市教育委員会の方針に則り公表いたします。

なお、本調査により測定できるのは、学力の特定の一部分であり、学校における教育活動の一側面に過ぎません。

1 調査の目的

- ① 大阪府教育委員会が、府内における生徒の学力を把握・分析することにより、大阪の生徒の課題の改善に向けた教育施策及び教育の成果と課題を検証し、その改善を図る。
- ② 市町村教育委員会や学校が、府内全体の状況との関係において、生徒の課題改善に向けた教育施策及び教育の成果と課題を検証し、その改善を図るとともに、そのような取組を通じて、学力向上のための PDCA サイクルを確立する。
- ③ 学校が、生徒の学力を把握し、生徒への教育指導の改善を図る。
- ④ 生徒一人ひとりが、自らの学習到達度を正しく理解することにより、自らの学力に目標を持ち、また、その向上への意欲を高める。
- ⑤ 大阪府教育委員会は、調査結果を活用し、大阪府公立高等学校入学者選抜における評定の公平性の担保に資する資料を作成し、市町村教育委員会及び学校に提供する。

2 調査の対象

- ・ 大阪府内の市町村立中学校、特別支援学校及び府立支援学校中等部の第 3 学年
- ・ 難波中学校では、第 3 学年 58 名

3 調査内容

- ① 国語、社会、数学、理科及び英語
- ② 生徒アンケート

平成28年度「チャレンジテスト」検証シート

学校名 大阪市立難波中学校

【 第 3 学 年 】

生徒数(人)

58

平均点（点）

平均無解答率（%）

| | 国語 | 社会 | 数学 | 理科 | 英語 |
|-----|------|------|------|------|------|
| 学校 | 58.0 | 52.2 | 38.2 | 29.9 | 45.0 |
| 大阪市 | 58.8 | 52.7 | 47.1 | 37.6 | 56.8 |
| 大阪府 | 59.6 | 52.2 | 48.1 | 38.6 | 57.9 |

| | 国語 | 社会 | 数学 | 理科 | 英語 |
|-----|------|-----|------|------|-----|
| 学校 | 12.8 | 6.1 | 12.3 | 12.5 | 9.5 |
| 大阪市 | 10.7 | 6.0 | 8.6 | 9.6 | 5.5 |
| 大阪府 | 10.1 | 6.4 | 8.3 | 9.7 | 5.4 |

結果の概要

【国語】市の平均とほぼ同一だが、無解答率は全教科で最も高い。要旨や長文記述で挫折している状況がある。

【社会】「地理的分野」の問題や「記述式」の問題での正答率が高かった。問題にも意欲的に取り組み、解答している生徒が多くみられた。

【数学】平均正答率が平成27年度「チャレンジテスト」の府平均に対する割合が約4%、市平均に対する割合が約5%増加しているが、記述式の問題に対して苦手意識を持っている生徒が多い。

【理科】物理や化学の実験に意欲的に参加する生徒が多いが、特に物理的領域を苦手とする生徒が多く、学習単元に関しての深い理解に至らず、知識が定着していないように感じられる。

【英語】得点分布より特に外国語表現の能力、書くこと、記述式設問に対する得点が低い。また、無解答率も大阪府、大阪市の平均を大きく上回る結果となっている。

成果と今後取り組むべき課題

【国語】記述に取り組む訓練を積み重ねる。スモールステップに自分で分解して一つの文章を組み立てる練習が必要。

【社会】「記述式」の問題で正答率が高かったのは、授業で行う言語活動の成果だと考えられる。「歴史的分野」の学力向上にも努めたい。

【数学】数学への関心・意欲・態度はよくなっているが、主体的に取り組むまでには至っていない。習熟度別少人数授業をできるだけ多く実施し、学習サポーターと連携しながら引き続き基礎・基本の定着を図る。

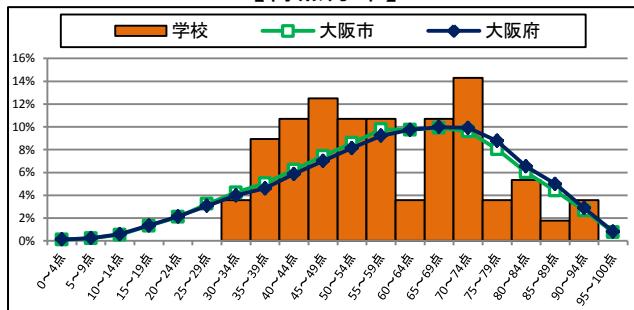
【理科】実験での理解だけでなく知識の定着を測るために、定期的な小テストや課題を提示していきたいと考えている。

【英語】現状の得点において、聞くこと、外国語理解の能力は配点の約50%を得点できているので、言語活動において不可欠な推察力はやや活用できている。今後、基礎的な文法理解を定着させ、まずは一文から書くこと、表現する機会を多く設ける。

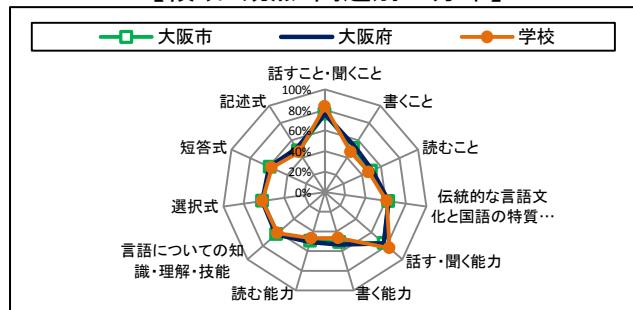
【第3学年 各教科の得点分布と領域・観点・問題形式別平均得点の分布】

【国語】

【得点分布】

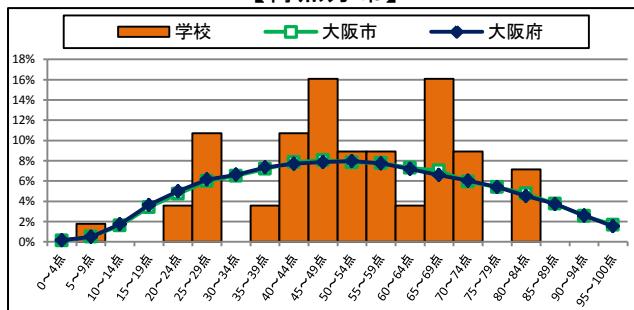


【領域・観点・問題別分布】

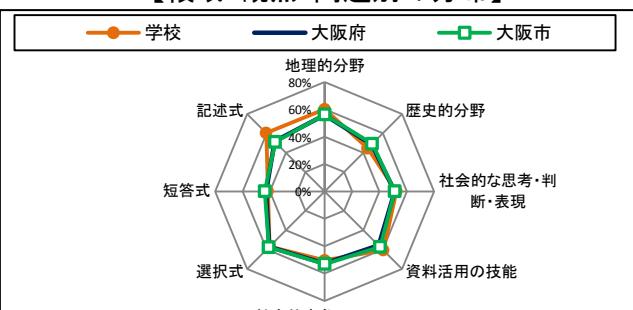


【社会】

【得点分布】

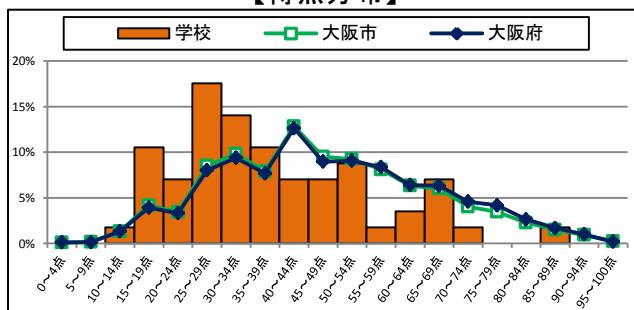


【領域・観点・問題別分布】



【数学】

【得点分布】

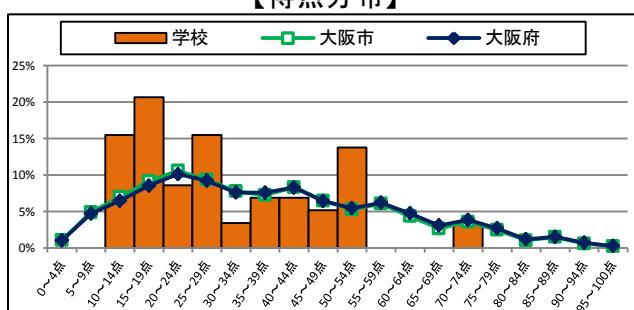


【領域・観点・問題別分布】

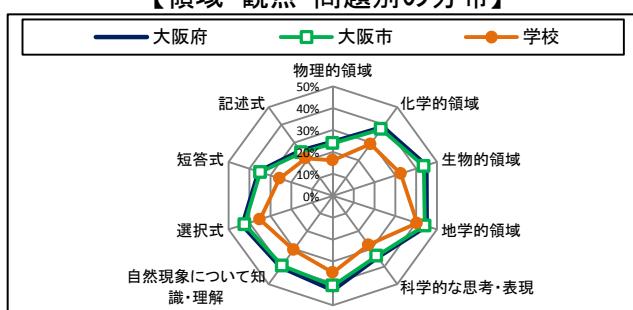


【理科】

【得点分布】

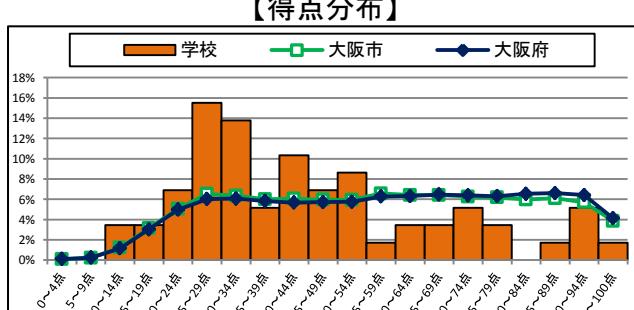


【領域・観点・問題別分布】



【英語】

【得点分布】



【領域・観点・問題別分布】

